

第二十日目

師 範：8代執権の北条時宗のときに、蒙古が襲来しました。



国名で言えば元軍が高麗の兵を従えて、博多に攻めて来たのです。

一部は上陸し、博多の町は焼け落ちてしまった。

日本占領の危機が迫っていた。

しかし、上陸した元軍はなぜか船にもどりました。

そしてその夜に暴風が吹いて大量の船は視界から消えていたのです。

1274年 文永の役がおこる。

この年を覚えましょう。

コン太：神風が吹いたといていたようですから

「神風が吹いて元軍とうになし」

「とうに」というのは「とっくに」という意味ですが、

10 + 2として読み、

「なし」は74です。これで1274年。



師 範：「とうに」という言葉をうまく使えましたね。

ペン太：まいりました。

